

北海道手をつなぐ育成会 げっぽう

第791号

昭和39年3月13日第三種郵便物認可第10号(毎月1日発行・定価一部10円会費を含む)
●発行日—令和5年12月1日
●発行所—札幌市中央区
〒060-0002 札幌市中央区
北2条西7丁目かでの2・7(4F)
電話 011-251-0855
FAX 011-251-0804
Eメール doikusei@air.ocn.ne.jp
●発行人—佐藤春光
印刷所 (株)北海道機関紙印刷所

各種体験、感想発表、参加者全員による「キツネダンス」 会場いっぱい参加者、鳴りやまぬ拍手、充実の交流会！

10月22日(日)帯広市グリーンプラザを会場に「第17回本人の会全道交流会 ひろげようみんなのわい帯広」が開催されました。

十勝管内はもとより、釧路、小樽、旭川、札幌等から当事者と支援者97名(11団体)、ボランティア、スタッフ56名、総勢153名が集合。期待の大きさを感ぜました。

【開会式】ご来賓として、帯広市より



池原佳一副市長、また、帯広市社会福祉協議会からは、朝日照夫副会長のお二人より、「関係者への労いと、様々な体験を通じて、帯広の自然や文化を感じてほしい。安全に気を付け、大いに楽しんで下さい。」とのご挨拶をいただきました。

その後、参加者は次に示す3コースに分かれ、およそ1時間半の活動を体験しました。

皆さんから寄せられた感想をご紹介します。

【フィットネス】

(仮装して運動不足を解消)
●初めてハロウィン気分でヨサコイ踊

って、体が汗かいて、運動になりました。

(ご本人)

●フィットネスは、踊りもソーランも楽しかったです。(ご本人)

●気分転換で良かった。(ご本人)

●参加者同士が交流できる工夫があり、感心しました。(支援者)

【作品づくり】

(ガラススタイルで小物ケースを)

●楽しくガラスで作って、いろんな色があつて楽しくできました。(ご本人)

●タイルを係の人と頑張りました。(ご本人)

●互いに顔を見て、人の温かみが伝わってきました。(支援者)

【競馬場見学】

(バス2台に分乗し会場へ)

●ばんえい競馬を見学しパンフレットをもらいました。(ご本人)



かったです。(ご本人)
●レースは見れないがばんえいの説明も楽しかったです。(支援者)

【体験発表会】

(集合して意見交換、交流会)

●皆さんと仲良くしたり、一杯、話をして良かったです。(ご本人)

●無事に帯広が開催してくれて「キツネダンス」が楽しくでき、すすごかったです。(ご本人)

●とても温かい時間でした。いつまでも続けられるよう頑張りました。(支援者)



【閉会式】

あつという間に4時間が経過。最後は次期開催地となる「小樽友達の輪」の吉田会長、金子副会長より「来年は小樽でお会いしましょう。お待ちしております。絶対来てください。」と呼び掛けに会場全員が拍手で確認。全日程を終了しました。



司会進行を始め、各グループ内で積極的に活動する等、随所にホスト役の「帯広えがおの会」の奮闘が光りました。感謝です。そして、お疲れ様でした。

【各ブロック 研修会】 実施報告

《十勝ブロック 研修会》

自分の地域で安心して暮らすために

10月29日、ブロックとしては4年ぶりとなる研修会を標記のテーマで開催しました。参加者60数名中の6割近くは、育成会（親の会）会員でしたが、一般市民、当事者、学校、行政、事業所関係者など、幅広い分野の方々が参加される貴重な場となりました。これは管内各市町村における福祉の窓口、教育委員会、学校、事業所ネットワーク関係、そして育成会（親の会）のご協力の賜物と思っています。



講演は移行支援事業所「ここから未来」の『片平修所長』による講演で、演題は「コロナ禍に事業所を開設し、何を思い、何を経験し、福祉の現場を通じ、今後のことを思う」でした。ご自身の人生と、地域福祉に関わってきた様々な取り組み、そして、福祉への熱い思いが語られ、参加者からは共感の聲が寄せられました。

今回、私達は「研修会

を再開する」ことを一番のテーマとしました。5類相当とは言え、コロナへの配慮から午前日程とするなど、一定の制約を覚悟しながらの研修会でした。参加者の皆さんからは「参加して良かった」という声があった反面、「もっと話が聞きたかった」など、ご要望やご意見が寄せられています。ぜひ、今後に生かしたいと思います。また、準備を進める中で福祉や学校関係者の中に育成会（親の会）の存在を知らない方々がいました。私達の果たす役割は増々大きくなっています。様々な方々が参加できる、こうした事業を通じ、育成会の認知度を高め、会員にお誘いしたいものと改めて感じた取り組みとなりました。

十勝地区手をつなぐ育成会連絡協議会

事務局長 久保 寧男

《胆振ブロック 研修会》

法改正でますます重要となる

意思決定支援

11月3日、文化の日に「又村あおい」氏（全育連事務局長）をお迎えして「法改正でますます重要となる意思決定支援」をテーマに、育成会会員を中心とする55名の参加のもと、2部構成で講演会が開催されました。冒頭、登別市育成会、東田会長よりご挨拶がありました。

第1部の『どう変わる？総合支援法・児童福祉法』では、来年度報酬改定で大きく変わる制度



の中で、児童発達支援センターの役割の幅が広がることや、特にグループホームから、さらに自立（ひとり暮らし）へ向けた支援の明確化、例えば、ひとり暮らしを希望する方の転居の際の部屋探しはグループホームが行うことを基本とするなどが報告されました。わ



が地区（室蘭市）では、これまで相談支援事業所と連携しながらその都度お互いの役割分担を決めて支援を行ってききましたが、部屋探しはグループホームで！と制度で明確化された場合、スタッフの負担等、少し心配だなと感じました。しかし、その一方、ひとり暮らしを望む方にとっては、希望を叶えやすくなる制度であるかもしれません。第2部の『障がいのある人の意思決定支援について』では、どんな障がいがある方にも必ず意思はある！それを「読み取るためのアプローチの工夫」が重要なこと、また、支援でありがちな「支援者の懸念（考え）」の押し付けがないか。本人の意思を尊重しているか？と日常的に耳を傾け支援に向かう必要性を改めて思い今後の支援に生かして行きたいと強く感じ良い学びをさせて頂きました。

胆振地区手をつなぐ育成会（親の会）連絡協議会

事務局長 鈴木 大輔

全国100万筆署名活動！

正義・公平の理念にもとづく 最高裁判決を

旧優生保護法に基づく強制不妊処置の被害に遭った方々が国を相手取って提訴した裁判に関する署名について、全育連より会員の皆様に次のようなお願いの文書が届きました。

本件は複数の原告が訴訟を起こしており、来年には最高裁判所（大法廷）で審理が予定されています。旧優生保護法による強制不妊手術は日本国憲法のもとで他に類をみない人権侵害であり、多くの知的障害者も被害に遭っています。また、過去に育成会も強制不妊を是認していると受け取られかねない発信をしてきたことは検証し、率直な反省を行っています。

そうした背景も踏まえた上で今般の署名活動は育成会としても積極的な参加が不可欠と判断しました。育成会会員はもちろんのこと、ぜひ周囲の関係者にも幅広くお声をいただきま

全育連会長 佐々木 桃子

道育成会は11月15日、

道内全ての地区育成会及び、道育成会事業所協議会に加入する事業所の皆様へ「署名用紙」等を発送し協力をお願いしました。つきましては、日頃



より、ご理解とご支援をいただいております皆様のもとへもお伺いすることがあるかと思ひます。ご協力のほど、どうかよろしくお願ひ申し上げます。なお、道育成会HPに署名用紙等をアップしておりますのでご活用いただければ幸いです。

私たち育成会、ただ今、奮闘中！

地区育成会の活動紹介

その5

「育成会」を知ってほしい

市役所と合同の

特別支援学級保護者向け「勉強会」

「この頃、新規の会員が増えない。」という声がまわりの育成会から聞こえてきます。当会も同様で、どうしたら会員を増やせるか。大きな悩みとなっています。今後も少子化は進み、集まる人数は減少することが見込まれます。大変、切実な課題です。

そこで、私たちが考えたのは市内の特別支援学級の保護者の皆さんに向けたアプローチです。先ずは「育成会」という団体を知ってもらうことに取り組んでいます。

今年は「知っておこう！支援が必要かなと思ふ子どもたちのこと」進学、就職・就労、年金」



と題し、いわゆるグレーゾーンのお子様たちのご家庭向けの勉強会を開催しました。

開催にあたっては、急なお願いにもかかわらず、網走市の障がい福祉係のご協力をいただくことができました。大変、感謝しています。

さて、当日の「勉強会」は参加者の皆さんに熱心に聞いていただき、質問も多く飛び交いました。中でも「障がい者雇用を受け入れてくれる企業が市内に何社あるのか？」という質問は、市が抱える悩みでもあり、多くの参加者が関心を寄せている事柄であることが分かりました。

私が事務局長になってから、行政の皆さんと連携して何かをするのも、こうした「勉強会」を開くのも初めての試みでしたので、大変緊張してしまい、肝心の「育成会」のPRがうまくできませんでした。ですが、ご参加者いただいた皆様には子育ての不安の解消や、少しだけ「育成会」のことを知っていた、当会にとっても小さな一歩につながったように思ひます。

これからも地域の方々に協力してもらいながら子育ての不安解消や、育成会を知ってもらう活動を積極的に行っていきたいと思ひます。

網走市手をつなぐ育成会 福田 美紀

今後の予定

7日(木) 道育成会 第4回 理事会

知的障がい・発達障がい、ダウン症、てんかんのある方、ご家族に

病気やケガが絶えない…成人病や生活習慣病に備えたい…他人の物を壊してしまった…虐待・雇用現場での差別など人に相談しにくい悩みがある…

障がいのある方とご家族へ

ぜんちの
あんしん保険
少額短期健康組合保険（特約付）2019年創設

特別支援教育を必要とされている方へ

ぜんちの
こども傷害保険
権利保護補償付傷害保険 2019年創設

- ・最高日額1万円
- ・個人賠償責任補償
- ・弁護士費用補償
- ・安心サポート

- ・入院・通院を日額保障
- ・個人賠償責任補償
- ・トラブルに巻き込まれた際、弁護士がサポート

このようなお困り事に心当たりがある方に…

詳しい資料のご請求・お問合せはこちら

ぜんち共済株式会社
関東財務局長（少額短期保険）第14号
〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-5九段北325ビル4階
※ご契約にあたっては必ず「ご契約に際しての重要事項」「約款」東京海上日動の「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、ぜんち共済株式会社までお問い合わせください。
【2020年1月作成 19-T06633】

0120-322-150
平日9時～17時/土日・祝日・年末年始を除く
URL: <http://www.z-kyosai.com/>

取扱代理店（資料請求・その他お問い合わせ）

有限会社オフィスブレイン
〒060-0032
北海道札幌市中央区北2条東3丁目2番地 札幌セントラルビル2階
TEL: 011-207-2522 FAX: 011-207-2523

知的障がい児者・自閉症児者の
生活サポートは 家族の安心を支えます

●日常生活に関する相談支援 ●就労に関する相談支援
●権利擁護に関する相談支援 の3事業を実施しています。

当会にご入会いただくと、知的障がい児者、自閉症児者のための病気やケガの総合補償制度をご利用いただけます。

AIG損保の普通傷害保険
生活サポート総合補償制度

※上記は概要ですので詳細は下記までお問い合わせください。

主な補償内容

病気やケガで入院したとき 入院給付金	病気で死亡したとき 疾病葬祭費用保険金 ※プランによって補償します	虐待・逮捕・勾留に対応するとき 弁護士費用等補償 ※プランによって補償します
ケガをしたとき 死亡・後遺障害・入院・通院・手術・各保険金 〔地震・噴火・津波によるケガも対象〕	賠償責任を負ったとき 個人賠償責任保険金	就労中に他人にケガをさせたり物を壊してしまったとき 職業従事中事故対応費用補償 ※プランによって補償します

特定障害者福祉団体傷害保険特約、弁護士費用等補償特約、職業従事中事故対応費用補償特約、地震・噴火・津波危険補償特約セット

保険のお問合せはこちら

■担当代理店・扱者
株式会社 ジェイアイシー 北海道支店
〒060-0042 札幌市中央区大通西13丁目4番地102 レジディア大通公園2F
TEL: 011-221-7009 FAX: 011-221-1704
受付時間: 午前9時～午後5時
(土・日・祝日・年末年始を除く)

■引受保険会社
AIG損害保険株式会社
<https://www.aig.co.jp/sonpo>
札幌支店
〒060-0003 札幌市中央区北三条西4-1-1 日本生命札幌ビル17F
TEL: 011-204-7510
受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ご入会のお問合せはこちら

北海道知的障害児者生活サポート協会
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7 4階
北海道手をつなぐ育成会内
TEL: 011-251-0855 FAX: 011-251-0804
受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

2022年12月現在の内容です。(D-006318 2024-03)

『どんな障がいがあっても、地域で普通に暮らしたい』

障がい者の願いを実現することが事業所協議会の目的です。私たちは、『経営』と『志』の統一を目指しています。体力のある事業所も体力のない事業所も助け合います。あなたの事業所の入会を待っています。

**北海道手をつなぐ育成会
事業所協議会**

〒060-0002
札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7 (4F)
電話(011)251-0855/FAX(011)251-0804
E-mail: doikusei@air.ocn.ne.jp

★会員事業所紹介★

特定非営利活動法人 深川市手をつなぐ育成会
多機能型事業所 深川ディスプレイスふれあいの家

〒074-0014 深川市開西町2丁目7番15号
電話(0164)22-4002 FAX(0164)22-4007 Eメール fureai@cameo.plala.jp
就労継続支援B型 25名 生活介護 15名 【40名定員】

★主な作業

- ☆JAきたそらち 胡瓜・長芋出荷、米精米、牛の飼料作り、カラーピーマン袋詰め
- ☆市内の病院、図書館、文化ホール清掃
- ☆委託作業 (黒板消し制作、ホタテ梱包袋、フレコン加工)
- ☆生産活動 (手芸作品、エコ石鹸、野菜)
- ☆たいてい店舗・移動販売 (あんこ、クリーム)

